

施策評価シート

1 総合計画上の位置づけ

担当課： 市民健康課

施策名	O7 地域医療
政策名	地域全体で「人」を支える
施策がめざす将来の姿	・救急医療体制、医療機器及び診療体制が充実し、休日や夜間においても適切な医療が受けられます。 ・地域の診療所や病院が連携することで地域医療体制が整い、どの地域においても安心して医療サービスを受けることができます。

③ 施策評価指標

成果指標名	単位	後期当初値	令和9年度目標
休日在宅当番医制協力医療機関数	機関	33	33
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	34	34	

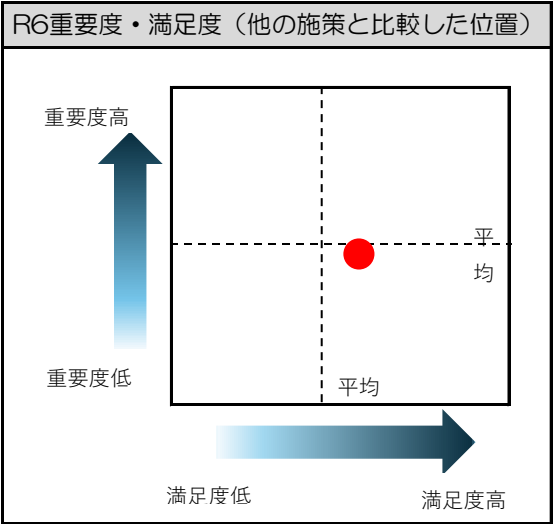
成果指標名	単位	後期当初値	令和9年度目標
歯科在宅当番医制協医療機関数	機関	31	31
	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	31	31	

3 施策の重要度と満足度（市民アンケート調査結果）

重要度／単位（人）
令和6年度
219

満足度（満足している市民の割合）／単位（％）		
令和5年度		令和6年度
91.3		90.3

※増減（→）の基準は3ポイント以上とする



4 施策の課題と今後の方針

（施策評価指標等の分析のほか、今後重点化していく事務事業について、現状・課題・背景などを踏まえて記載。）

市内どの地域でも安心して医療が受けられる体制や休日・夜間の救急医療の体制は必要であります。
市民満足度が平均を上回る結果となっていることから、現状の休日・夜間の救急医療体制を維持していきます。
また、国保診療所は過疎化の進む高齢化率の高い地域にあり、急速な人口減少に伴う患者の減少が見込まれるため、現状を分析し診療所の機能は残しつつ診療体制を変更していくことで、持続可能な地域診療体制を構築していきます。

5 施策を構成する事務事業の今後の方向性

（右欄は、施策を構成する事務事業のうち、今後特に重点化するものに○、縮小するものに△、廃止するものに▲を付す。）

事務事業①：医師・看護師確保対策事業

R6決算額 （千円）	重点化(縮小)する細事業 （主なもの2事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
21,330	関市地域医療確保事業（寄附講座）	→	→	大学病院から専任医師による診療支援を受けるため、引き続き地域医療の人材確保と育成のために継続する。	○

事務事業②：地域医療体制整備支援事業

R6決算額 （千円）	重点化(縮小)する細事業 （主なもの2事業まで）	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
23,400	病院群輪番制病院運営事業	→	→	休日及び夜間の救急医療及び重篤患者の医療を確保するために継続する。	△
	歯科在宅当番医制運営事業	↘	→	歯科在宅当番医制については、実績（患者数）を基に診療時間の短縮を検討する。	

事務事業③：周産期医療体制強化事業

R6決算額 (千円)	重点化(縮小)する細事業 (主なもの2事業まで)	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
8,250	高度な周産期医療病床確保	→	→	病床が確保されることで市民の安心安全につながるため継続する。	○

事務事業④：骨髄移植ドナー助成事業

R6決算額 (千円)	重点化(縮小)する細事業 (主なもの2事業まで)	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
140	骨髄移植ドナー助成	→	→	共助で成立している医療であり、継続的に実施していきます。	

事務事業⑤：救命救急センター運営支援事業

R6決算額 (千円)	重点化(縮小)する細事業 (主なもの2事業まで)	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
22,157	救命救急センター運営	→	→	重篤な救急患者への医療確保として、引き続き維持が必要である。	○

事務事業⑥：地域救急医療推進事業

R6決算額 (千円)	重点化(縮小)する細事業 (主なもの2事業まで)	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
1,417	救急安心センター(＃7119)事業負担金	→	→	救急医療機関の受診の適正化、救急車の適正利用、住民の安心・安全の提供を図るために有効であるため継続する。講演会の開催を主とする事業については、見直しを検討する。	△
	救急医療情報等普及啓発実施事業補助金	↘	↘		

事務事業⑦：洞戸診療所診療支援事業

R6決算額 (千円)	重点化(縮小)する細事業 (主なもの2事業まで)	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
13,322	支援事業	→	↗	中核医療機関からの診療支援は継続的に必要です。洞戸診療所と板取診療所で常勤の医師1名、歯科医師1名を中心に、中濃厚生病院、朝日大学歯学部附属病院、サポート医師からの診療支援を受け地域医療を維持・確保していきます。	○

事務事業⑧：板取診療所診療支援事業

R6決算額 (千円)	重点化(縮小)する細事業 (主なもの2事業まで)	方向性		事務事業の今後の方向性	重点化
		事業費	成果		
2,291	支援事業	→	↗	中核医療機関の診療支援は継続的に必要です。洞戸診療所と板取診療所で常勤の医師1名、歯科医師1名を中心に、中濃厚生病院、郡上市民病院、朝日大学歯学部附属病院、サポート医師の診療支援を受け地域医療を維持・確保します。	○